

少年の日の思い出①②③ (氏名)

「僕」が「ちよつを」っっ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった「のはなぜだ」と思いますか。

2

「少年の日の思い出」ワークシート②

氏名)

○エキスパートA (全文で)

・「僕」は、ちょうを集めることだ、どんな様子だったか。
・なぜ、盗んでしまっほじだったのか。

※自分の意見ともとなる(根拠となる)文は書くこと。

例

友人はひとつのちょうを、ピンのついたまま箱の中
から用心深く取りだし

※ジグソーで伝えなければならぬことは色を変えるなど工夫をすること

「少年の日の思い出」ワークシート②

氏名)

○エキスパートB (全文で)

- ・「僕」は「エーミール」をどういう人だと思っていたか。
- ・なぜ、そのような描かれ方をしているか。

※自分の意見ともことになる(根拠となる)文は書くこと。

例

せめて、隣の子だけは見せよう

中庭の向こうに住んでいる先生の息子だった

※ジグソーで伝えなければならぬことは色を変えるなど工夫をすること

「少年の日の思い出」ワークシート②

氏名)

エキスパートC

(4)の場面で)

- ・ 「僕」と「エーミール」のやりとりで、「僕」はどんな行動をしたか。
- ・ 「僕」はなぜ、謝れなかったのか

※自分の意見ともとなる(根拠となる)文は書くこと。

例

僕は出かける気になれなかった。母は僕が中庭にいるのを見つけて

※ジグソーで伝えなければならぬことは色を変えるなど工夫をすること

○エキスパートA (全文で)

・「僕」は、ちょうを集めることに、どんな様子だったか。
・なぜ、盗んでしまったのか。

※自分の意見ともことになる(根拠となる)文は書くこと。

例

友人はひとつのちょうを、ピンのついたまま箱の中
から用心深く取りだし

・ちょうを見るくらい幼年時代の思い出を強くせられるものはない。
・熱情的な収集家だったものだ。
・ひどく心を打ち込んでしまい、そのため他のことはすっぽかして寫ったので、みんなは何度も語句にそれを病めさせなければなるまいと…
・ちょうを捕りに出かけると、学校の時間だろうが、…耳に入らなかった。
・休暇になると、…食事になんか帰らないで、駆け歩くことがたびたびあった。
・今でも、美しいちょうを見ると、…おろおろ、…
・そういう場合、…子どもだけが感じることができるあのむさぼるような…
・まるで宝を探す人のように、
・美しいちょうを見つけると、特別珍しいのでなくってかまわない、
・緊張を歓喜と来たらなかった。そうした微妙な…そうしたたび感じたことはなかった。
・こうした箱のつぶれた縁の間に、僕は自分の宝物をしまって…
・珍しいコムラサキをとらえた。それを展翅し、…得意のあまり…
・今、僕の知人の一人が、百万マルクを受け継いだとか、歴史家リビウスのなくなった本が発見されたとかいうことを聞いたとしても、そのときほど興奮しないだろう。

・クジャクヤママユほど、僕が熱烈に欲しがっていたものはなかった。
・その大きな光斑点は、非常に不思議な思いがけない外観を呈するので…
・僕はすっかり興奮してしまって、…待ちきれなくなった。
・せめて例のちょうを見たい
・胸をときどきさせながら、
・すると、四つの大きな不思議な斑点が、…この宝を手に入れたいという、
逆らいたい欲望を感じて…

・さしずめ、僕は大きな満足感の他は何も感じていなかった。
・盗みをしたという気持ちよりも、自分がしびれてしまった、美しい珍しいちょうを見ている方が僕の心を苦しめた。元通りにするに心がきたら、…
・…
・…
・…

※ジグソーで伝えなければならぬこと(色を変えたり工夫をすること)

○エキスパートB (全文で)

- ・「僕」は「エーミール」をどういう人だと思っていたか。
- ・なぜ、そのような描かれ方をしているか。

※自分の意見ともとなる(根拠となる)文は書くこと。

例

せめて、隣の子だけは見せよう

中庭の向こうに住んでいる先生の息子だった

- ・非の打ちどころがないという悪徳を持っていた。
- ・それは子どもとしては、二倍も気味悪い…
- ・彼の収集は小さく貧弱であったが、手入れの正確な点でひとつの宝石のようなものになっていた。
- ・非常に難しい、珍しい技術を心得ていた。…あらゆる点で模範少年だった。そのため、僕はねたみ、…
- ・専門家らしく鑑定し、二十ペニヒべらいの現金の価値はあると値踏みした。それから、彼は難癖を…もったもな欠陥を、
- ・こっぴどい批評家のため、…傷つけられた。
- ・例の先生の息子は、小さいながら自分だけの…。それが、僕にはどれくらいうらやまし買ったかわからない。
- ・上がってきた女中とすれ違い、

例 エーミールのことをうらやましてく思いながら、ねたんでいたから。

- ・エーミールのが嫌いだから。
- ・僕の目から描いた「エーミール」だから。
- ・本当は嫌なやつではないかもしれない

※ジグソーで伝えなければならぬことは色を変えるなど工夫をすること

エキスパートC (4)の場面で)

- ・「僕」と「エミール」のやりとりで、「僕」はどんな行動をしたか。
- ・「僕」はなぜ、謝れなかったのか

※自分の意見ともとなる(根拠となる)文は書くこと。

例

僕は出かける気になれなかった。母は僕が中庭にいるのを見つけて

・僕は、そのちょうを見せたくれ、と頼んだ。二人は上へ上がっていった。僕はだ
いなしになったちょうが展翹板の上のっているのを見た。そこで、僕はそれは
僕がやったのだといい、詳しく話し、説明しようとした。

・僕は、枯れに、僕のおもちゃをみんなやると行った。僕は自分のちょうの収集を全
部やると言った。

・その瞬間、僕は、すんでのところであいつののどぐえに飛びかかるところだった。
・僕は立ち去った。

・例 本当は悪いと思っていない。だから、「しめんなさい」と言えなかった。

壊すつもりもなく、ただ見たかっただけ。だけど、エミールがいなかった
から、近づく思ってた、そばに話したら、あつなうって来た。

エミールに悪いと思っていなくて、ちょうを壊したことだけは悪いと思っ
ているから、エミールに素直に謝れない。

軽蔑されて、腹が立ったし、自分の収集や、ちょうの問いら使い方をばかにさ
れて、プリントが傷ついたから。

※シグソーで伝えなければならぬことは色を変えるなど工夫をすること